

ひ や り ん 鬼

1991

ひやカーひいて冷やっこの王子が今とおる

新作◎作・演出

唐十郎

唐組・第47回公演

唐組

[公演場所・公演日程]

大阪= 元 精華小学校グラウンド

(地下鉄・南海線「なんば」駅下車)

4月23日(土) 24日(日)

※大阪市助成公演

※共催=大阪市、精華小学校跡地活性化協議会

問合せ= TRASH² 携帯090-8168-5353

trash2dream0726@yahoo.co.jp

チケットぴあ ☎0570-02-9999 (Pコード:410-550)

イープラス <http://eplus.jp/karagumi/> (パソコン&携帯)

水戸= 水戸芸術館広場・特設絨テント

5月14日(土) 15日(日)

※前売3,000円 当日3,300円 学生2,000円

問合せ=水戸芸術館AGM劇場 ☎029-227-8123

東京= 新宿・花園神社

(「新宿」駅・地下鉄「新宿三丁目」駅下車)

4月30日(土) 5月1日(日) / 5月7日(土) 8日(日)

6月4日(土) 5日(日) / 6月11日(土) 12日(日)

問合せ=唐組・チケットぴあ・イープラス

東京= 雑司ヶ谷・鬼子母神

(「池袋」駅・都電荒川線「鬼子母神前」駅・副都心線「雑司が谷」駅下車)

5月21日(土) 22日(日) / 5月28日(土) 29日(日)

問合せ=唐組・チケットぴあ・イープラス

チケット取扱所=唐組 ☎03-3330-8118

チケットぴあ ☎0570-02-9999 (Pコード:410-552)

(音声認識・Pコード予約/オールジャンル受付)

<http://pia.jp/t>

イープラス <http://eplus.jp/karagumi/> (パソコン&携帯)

[開演時間] 毎夕7時(6時30分開場)

[入場料] 前売券 3,500円 当日券 3,600円

※入場整理券(前売券と引き換え)及び当日券は、

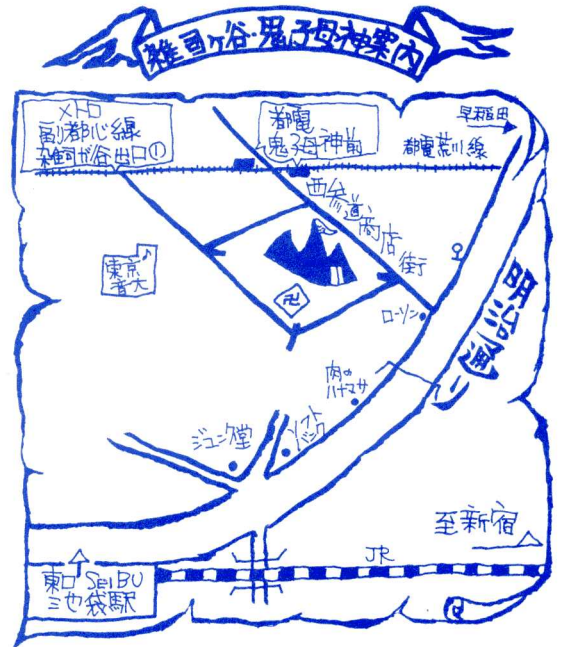
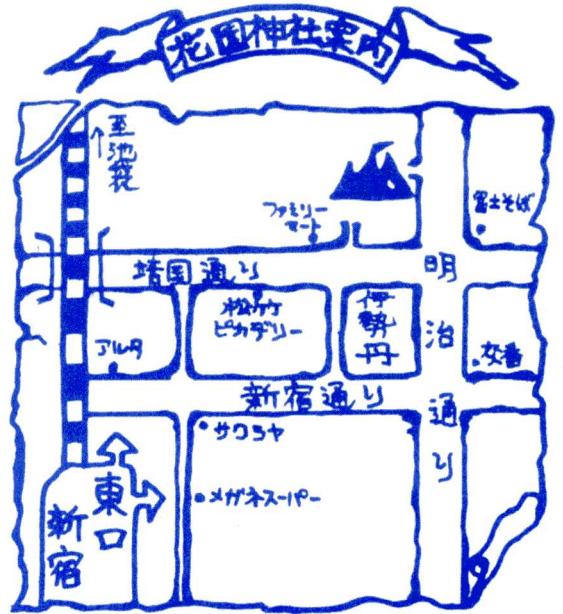
午後1時より受付にて発行致します。

※独立した幼児以外の幼児は入場をご遠慮下さい。

[問合せ] 唐組 ☎ / Fax 03-3330-8118

[前売開始] 3月6日(日)

劇団唐組 〒165-0034 東京都中野区大和町4-3-9



[スタッフ]

音楽=安保由夫、大貫誉

舞台美術=劇団唐組

絵=合田佐和子

デザイン=及部克人

データ作成=海野温子

制作=劇団唐組制作部

協力=(株)文化印刷

発行日=2011年2月28日

発行人=涙十兵衛

発行所=劇団唐組



2011 SPRING



<p>「来福の家」 温又柔</p> <p>定價●1,575円</p>	<p>「おれのおばさん」 佐川光晴</p> <p>定價●1,260円</p>
<p>「新訳チェーホフ短篇集」 沼野充義 訳</p> <p>定價●1,680円</p>	<p>「下ロケルイユの星」 米田夕歌里</p> <p>定價●1,155円</p>

集英社 話題の文芸単行本

唐十郎

暗闇を愛する男に、果たして花の「声」は届くのか。鬼才が放つ長編小説

朝顔男

浅草花やしきで働く青年は、朝顔の伝説の秘密を解くために、下町から新宿地下街、海底炭田へと不思議な旅に誘われる……。

読売新聞連載の長編小説
1995円 表示価格は税込価格

中央公論新社
www.chuko.co.jp/
TEL 03-3563-1431

お知らせ

『東日本大震災お見舞い公演っ。』

かねてよりこの「ひやりん児」公演は、5月14日・15日水戸公演でありましたが、急遽、皆さんがご知りの、あの、飛行機が中をくぐり抜けた聖橋近くの明治大学の陽だまり広場で“紅テント、翻りたつ”ことと致しました。

そこで、この芝居は、リヤカーをひいて冷やっこの王子が今とおる。くずれ、こわれ、情^{じょう}なしの世界へ入って行く、この男の姿を見て下さい。待ってます。

劇団唐組 ひやりん児一同

C*日程 ☞ 5 / 14(土)アフタートークあり 金山秋男・中沢新一・唐十郎
15(日) " 坪内祐三・天童荒太・唐十郎
(敬称略)

C*場所 ☞ 明治大学・駿河台キャンパス 陽だまり広場

JR 御茶ノ水駅より徒歩5分

(御茶ノ水橋口改札出て左へ。山の上ホテルの看板を通りすぎて、明治大学リバティタワーの左横の階段をのぼる。)

時間 ☞ 毎夕7時開演 (6時30分開場)

前売券 ☞ 3500円 当日券 ☞ 3600円

※入場整理券及び当日券は、午後1時より受付にて発行致します。

問合せ ☞ 唐組 ☎&fax 03-3330-8118

共催:水戸芸術館、明治大学

※本公演の収入の一部は震災の義援金に致します。



紅テントの今

巡業のヴィジョンを造っている間に、外(東日本)で起こった大龍巻。

そこには仙台、水戸もあり、私ごとの疎開地、福島県富岡町の思い出もあった。

その中でも水戸芸術館での被害を聞いて、あの横にあった空き地はどうなるのだろうか……と思ったところ、詳細な報告を聞き、そこは東京からの演劇空間を以^もって、いつか行って演じようと頭^{こうべ}を下げました。

お見舞いとは、心をそちらに飛ばしながら体は舞い演じることになるでしょう。

「ヒヤリンコ」は豆腐を売る男の話です。そしてそのオートーフは、水槽の中でゆれる漂流体です。

そして、それは求めてくるある人にしか売らないものです。

その気配りは強く、東日本での大渦巻にさまよう人々の差しのべる手をも待っています。

演劇に何ができるかと言われるならば観客と追体験しながら、＜反映、虚構空間の設定、祈り＞を秘めて、夜の幕を切って、展開をお観せすることで、ありましょ^うっ。

水戸から引越したお茶の水の風に、紅テントは、ヒラヒラと手招きします。

2011年4月11日

唐十郎